

いわき市沿岸 6 地先におけるアワビの資源量推定

福島県水産試験場 栽培漁業部

1 部門名

水産業－栽培漁業－採貝藻、種苗放流、アワビ

2 担当者

平川直人

3 要旨

東日本大震災により発生した東京電力福島第一原子力発電所事故以降、福島県の沿岸漁業は自粛され、アワビの漁獲は行われていない。また、福島県のアワビ種苗生産施設は津波で壊滅的な被害を受け、2011～2012 年はアワビの種苗放流は実施されなかった(2013 年は県内に 5 万個放流)。これら漁獲の自粛、放流の停止はアワビ資源に大きな影響を及ぼすことが想定されるが、十分な評価が行われていない。そこで、本研究は、アワビ主要漁場における震災以前の資源量推定を行い、漁業再開時の適切な資源管理方を検討することを目的とした。

- (1) 資源量推定は震災以前から調査記録を有する福島県いわき市沿岸の 6 つのアワビ漁場において実施した。震災以降に採取したアワビ貝殻をもとに年齢査定を行い、漁場ごとに Age-length-key を作成し、VPA によって漁場ごとに震災以前のアワビ資源量を推定した。
- (2) アワビ資源個体数は 5 つの漁場では、1990 年代後半から 2000 年代前半に最大となり、その後減少傾向にあった。しかし、1 つの漁場は 2000 年以降も資源個体数が増加していた。
- (3) 2002～2010 年における漁獲物の平均殻長は資源が減少している 5 つの漁場では横ばいもしくは小型化していた。しかし、資源が増加している 1 つの漁場では漁獲物平均殻長が大型化していた。
- (4) 6 つの漁場は直線距離で 15km と狭い範囲にあり、アワビの初期生残や加入機構は同様であると考えられる。したがって、大型個体の選択的な漁獲等の適切な資源管理によってアワビ資源の維持・増加が図れる可能性が示唆された。

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成 25 年度
- (2) 研究課題名 漁場環境保全技術に関する研究(海面)
- (3) 参考となる成果の区分 (指導参考)

5 主な参考文献・資料

- (1) 平成 23 年度～25 年度福島県水産試験場事業概要報告書